

# 地方都市視察報告書

文教子ども家庭委員会

1 実施日 平成29年10月26日(木)

2 視察地 広島県広島市立藤の木小学校

## 【市の概要】

(1) 面積 906.53km<sup>2</sup>

(2) 人口・世帯数

(平成29年7月末現在)

○人口 1,195,167人

○世帯数 559,052世帯



(3) 広島市は、昭和46年4月の安佐郡沼田町との合併をはじめとして、昭和50年3月安芸郡矢野町、船越町の計13か町村が合併し、昭和55年4月1日に、全国で10番目の政令指定都市となった。市街が整備され被爆建造物を取り壊されていくなかで、被爆の証人として残された原爆ドームは、平成8年には世界遺産へ登録された。平成14年には、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館が設置され、広島平和記念資料館とともに被爆者の遺品や体験記などにより、原爆の悲惨さと平和の尊さを発信している。核兵器廃絶と世界平和の実現を訴え続ける広島は内外から高い関心を寄せられており、世界各国の要人が訪れている。最近では、平成28年4月のG7広島外相会合の開催、5月のオバマ米国大統領の広島訪問が世界の注目を集めた。なかでもオバマ大統領の広島訪問は、現職大統領としては初めてのことであり、核兵器廃絶に向けた歴史的な一歩となった。

3 視察項目・内容

タブレットを活用した教育の取り組みについて

4 視察参加者

## 【委員】

沢田あゆみ委員長

おぐら利彦副委員長

北島としあき委員

平間しのぶ委員

久保広介委員

阿部早苗委員

中村しんいち委員

のづケン委員

伊藤陽平委員

## 【随行】

議会事務局議事係 濱野智子 榎本直子

## 5 視察結果・所感

広島市ではICTを活用した授業を推進しており、平成21年度から小中学校普通教室に基本的なICT機器として①50インチデジタルテレビ、②教室用コンピュータ、③実物投影機、④指導者用デジタル教科書を整備している。視察した広島市立藤の木小学校は「広島市教育の情報化推進拠点校」として児童1人に1台のタブレットPCを貸与し、ICT推進員を配置して先進的な取り組みが行われていた。

藤の木小学校は平成22年度から24年度まで総務省の「フューチャースクール推進事業実証校」の指定を受け、タブレットが導入された。教員は授業でタブレットを使うことが必須とされ、そのための研修も行われたが、当時は授業用ソフトが存在しなかったため、教員自らソフトを開発し蓄積してきたとのこと。新宿区でもタブレットの活用が始まっているが、教員の過重負担とにならないよう配慮しつついかに有効に活用するか、工夫が必要と感じた。

当初はタブレットの使用に重きを置いたためノートがおろそかになり、振り返り学習をする時に何も残っていないという事が起こったが、今は、何を学習したのかが後でわかるようにノートも併用することが徹底されている。このように試行錯誤しながら授業のあり方も改善が図られてきたとのこと。

実際にタブレットを使った1年生・3年生・6年生の授業を視察したが、担任の他にICT推進員が授業の補助を行っていた。教員免許はないとのことだが、ICT機器の操作のみならず授業の補佐として大きな役割を果たしていることが良くわかった。授業では子どもたちが1つの課題をやり終えた後に必ず2～3人で互いにタブレットを見せ合い、考え方を発表し合う姿がどの学年でも見られた。

藤の木小学校では1年生から1人1台のタブレットが貸与されキーボード入力なども自然と身に付けているが、中学校になると他の小学校から来た子どもとスキルの差が大きいという事が起こるため、どの子も同じようなICT環境で教育を受けられることが望ましいが、1人1台のタブレットとなると経費の面で課題が大きいということも実感した。

## 6 主な質疑項目

- (1) ICT専門職員の役割について
- (2) タブレットを利用した授業を行うための教員の研修について
- (3) 互いに発表し合う授業スタイルとICTとの関係
- (4) 中学校におけるICT教育について
- (5) ソフトの開発や他校との共有について
- (6) プログラミング教育と英語教育の準備について

## 7 その他

【共同視察者】教育委員会事務局教育支援課長 高橋 昌弘